

関係各位

平成 29 年 8 月吉日  
一般社団法人 mina family  
代表理事 本田 香織

## 子ども車いす啓発活動 ご協力をお願い

前略 私たちは、病気や障害のある家族からの情報・ニーズをもとに、日々様々な活動をしております。

この度、団体設立時から取り組んできた“子ども用車いす”（小児用の介助型車いす、別名：福祉バギー、以下「子ども用車いす」）の啓発活動について、みなさまのご協力を賜りたくお願い申し上げます。

いわゆる「車いす」と呼ばれる“自走式車いす”に比べ、最近増えている“介助型車いす”の認知度はまだ圧倒的に低いのが現状です。特に小児が利用していると、その外観から頻繁にベビーカーと誤認され、様々なひずみが生れます。それは例えば、障害者用駐車場や車いす用リフトの利用を咎められたり、歩けない子どもを乗せているのに「もう大きいんだから歩かせなさい」と非難されたり、車いすだと知っていただければ解決することばかりです。

この活動の目的は、子ども用車いすを優遇して欲しい訳でも、特別扱いして欲しい訳でもありません。ただ、「ベビーカーのような外観の車いすがある」「一見健康そうに見えても、様々なものと戦っている子どもが同じ社会に暮らしている」ということを、皆さんに広く知っていただきたいと願っています。ポスター1枚、シール1枚の掲示で、子どもたちと介助者の日常生活の不安が大きく改善される可能性があるのです。

つきましては、以下の通り資料を送付いたしますので、ご賛同いただける場合は各所でのポスター・シール掲示をお願いいたします。みなさまの温かいお力添えを何卒よろしくお願いいたします。

草々

記

・子ども車いす啓発活動 趣意書

1部

以上

『子ども用車いす』啓発活動  
「そんな大きな子供は歩かせなさい、なんて言わないで」  
趣意書

車いすの中でも特に社会的な認知度の低い『子ども用車いす（小児用介助型車いす、別名「福祉バギー」）』。その認知度の低さから、介助者たちは人知れず辛い思いをしています。この問題についてもっと世間に広く知っていただき、利用者や介助者とまわりの皆さんがお互いに譲り合えるような温かい社会になることを目指して、このプロジェクトを開始しました。

一般的に知られる「車いす」は「自走式車いす」ですが、近年ではリクライニングなどの機能を有する「介助型車いす」が増えています。介助型車いすは一般の認知度が低く、また外観がベビーカーに類似していることから、特に乳幼児が使用している場合にはベビーカーに誤認され、車いす利用者として認知されません。そのため利用者や介助者から「公共交通機関での福祉サービス（車いす用リフトなど）の使用を拒否された」「車いす用施設（駐車場など）の利用を咎められた」等の声が散見されます。また「大きくなった子供をベビーカーにのせて甘やかしている・親が楽をしている、虐待している」など非難を受けることもあります。

このような現状を解消するため、子ども用車いすの啓発ポスターを作成し掲示を広めると共に、「子ども車いすマーク（車いすを識別するために車体に表示、子ども用車いすに乗車したまま利用できる施設に表示、の二用途で使用）」の普及を推進しています。

まだ殆ど認知されていないこの問題を全国に広めるためには、全国規模の啓発活動を行う必要があります。是非みなさんのお力添えをいただけますよう、何卒よろしく願いいたします。

※介助型車いすは肢体不自由などの障害がある方他、てんかん発作や多動・パニック障害がある方など、様々な理由で使用されています。

※介助型車いすは成人～高齢者も利用していますが、車いすと認識されないことは稀であるため、当団体ではベビーカーと誤認されやすい小児の利用に範囲を限り「子ども用車いす」と呼び、啓発活動を行っています。

----概要----

1. 「介助型車いす」とは

介助型車いす（当方が「子ども用車いす」と呼んでいる、背もたれがあり、介助者が押して操作するタイプの車いす）が一般に出回ってきたのは、今から10～15年ほど前からだそうです。日よけシェードなどが付いているものもあり、小さいサイズの介助型車いすはベビーカーに酷似しています。

通常ベビーカーとの違いは、以下の3点です。

- ・ **サイズ**…ベビーカーより大きいものが殆どです。利用者は主に3歳以上～成人・高齢者まで、幅広い年齢層の方が利用しているため、それぞれの身体の大きさに合わせたサイズで作成されます。
- ・ **重さ**…身体の大きな方が乗るため、フレームも大きく、頑丈な造りになっています。そのため重量もベビーカーとは比べ物になりません。

・機能…多くの場合「シーティング」と呼ばれる、利用者の身体の状態に合わせてサポートする機能がカスタマイズされています。首据わりのない方に首サポート、側弯（身体の変形）のある方の矯正サポートなどです。またリクライニングやティルト機能などがあるため、以前はストレッチャーで移動していたような座位の取れない方や、眠っている状態の方でも利用することができます。介助型車いすの登場で、病気や障害のある方たちは以前より移動しやすくなりました。

現在、8～10万台の「子ども用車いす」が全国の街で使用されていると推計されます（18歳以下・手押し型車いす（バギー型）および手押し型車いすAの推計／当団体調べ）。



参考画像：ベビーカー（左）と子ども用車いす（右）

## 2. 当団体について

一般社団法人 **mina family**（ミナファミリー）…当団体は、定款により非営利であることが徹底された非営利型一般社団法人です。（非営利型一般社団法人…その行う事業により利益を得ること又はその得た利益を分配することを目的としない法人であって、その事業を運営するための組織が適正であるものとして政令（法人税法施行令 3 条 1 項）で定めるもの）

主な事業：介護用品の開発・販売、中古福祉用品の譲渡仲介（実施にあたり厚生労働省へ不適切でないかの確認済）、子ども車いす啓発活動、その他イベントの実施 など

## 3. 団体代表者について

本田香織（ほんだかおり）…一般社団法人 **mina family** 代表理事、一般社団法人子育てママの応援ぷらっとホーム理事、ウエスト症候群患者家族会会長、OHANA（小児青年てんかん勉強と交流の会）世話人  
職歴：学校法人モード学園（大阪医専）管理部、ブルガリジャパン株式会社リテール部、株式会社ダイコク会長秘書 など

略歴：1981 年生まれ。長子が 0 歳 6 か月で小児慢性特定疾患のひとつ「ウエスト症候群（點頭てんかん）」に罹患。闘病を綴ったブログが大きなアクセスを集める。多くの読者から相談を受けるようになり、当事者

にしか分からない問題が山積していることを知る。それらを解決するため、勤めていた会社を辞職し社団法人を設立。現在に至る。

メディア掲載情報：NHK「おはよう日本」全国版（特集）、読売新聞全国版・英語版 社会面、その他インターネットメディア多数。2018年に自著「MOMO と私とウエスト症候群（仮）」発売予定（株式会社滋慶出版）。

当プロジェクトについては国への要望、講演での啓発なども行っている。（「てんかん対策推進プロジェクトチーム(てんかんPT)」ヒアリング会議での陳述（永田町 議員会館にて実施）、野田聖子総務大臣への面会陳述、その他自身の講演会など）

#### 4. 啓発活動の詳細について

- ・クラウドファンディング掲載内容を別紙添付

#### 5. 啓発の方法について

- ・「子ども用車いす啓発ポスター」の掲示…子ども用車いすの啓発ポスターを作成・配布、各所にて掲示。

（掲示実績：大阪市平野区役所、大阪市平野区民センター、埼玉県熊谷市役所、埼玉県富士見市役所、東京都立小児総合医療センター、神奈川県立こども医療センター、横須賀市内の全幼稚園・小学校・高校・養護学校・ろう学校（74校）、浜松市の全公共施設（62か所）、京都北郵便局、大阪天神橋筋商店街、ほか公共施設・病院など多数）



参考画像：商店でのポスター掲示の様子（大阪市・天神橋筋商店街）

- ・「子ども車いすマーク」の啓発※…キーホルダーの作成・販売、シールの作成・販売。

（マーク掲示施設：大阪市平野区役所、神奈川県浜松市役所、海遊館（大阪）など）

※施設でのマーク掲示は「介助型車いすに乗った状態で施設に入って良い」という意思表示、マークのキーホルダーは「病気や障害などの理由により車いすとして利用しているベビーカーおよび介助型車いすである」ことを車体に表示するために使用します。



参考画像：マーク掲示の様子（大阪市平野区役所・正面玄関）



参考画像：マーク掲示の様子（大阪市平野区役所・障害者用駐車スペース）



参考画像：マークキーホルダーを提示した子ども用車いす

## 6. 活動実績

ポスター配布・掲示枚数 5000 枚以上、マークキーホルダー販売数 300 個以上（2017 年 8 月現在・フリーダウンロード分を含まない）。

## 7. 費用について

- ・啓発用ページ（団体 HP 内）作成、啓発イベント実施など、すべて寄付と自費にて補てん
- ・ポスター・シールの印刷費用および発送費用は、子ども用車いす利用者の母親を中心とした賛同者による寄付（クラウドファンディング『子ども用車いすをご存知ですか？』-そんな大きな子供は歩かせなさい、なんて言わないで-）にて補てん
- ・マークおよびポスターは団体 HP にて無料配布（ダウンロード方式）
- ・キーホルダー・シールは販売も行うが、収益は同啓発活動へ使用

## 8. マークについて

- ・子ども車いすマークは当団体の商標登録マークです（出願番号：商願 2016-30175）
- ・既存の「車いすマーク」（青×白のユニバーサルマーク）は「車いすで利用できる施設」を示すマークです。また「ヘルプマーク」は、配慮やサポートが必要な方を示すマークです。いずれも「車いす」であることを示す意味はなく、子ども用車いすの存在を知らない方には趣旨が伝わらないため、この度新たに「子ども車いすマーク」を作成しました。

## 9. 今後の目標

- ・子ども用車いす啓発ポスターを全国に掲示（公共施設・公共交通機関などを中心に）
- ・公共施設や公共交通機関にて、子ども用車いす啓発のための簡易セミナーを実施
- ・啓発のための一般向け講演会の実施
- ・子ども車いすマークキーホルダーなどを各役所で配布（身体障害者手帳・療育手帳などの交付があった乳幼児を中心に）
- ・子ども車いすマークのユニバーサルマーク化（内閣府のユニバーサルマーク一覧に掲示）
- ・2020 年東京パラリンピックの会場でマークを使用

**【最終目標】** 子ども車いすも「車いす」のひとつであると認識されること

以上

-参考資料-

## クラウドファンディング

### 『子ども用車いす』をご存知ですか？

- 「そんな大きな子供は歩かせなさい」なんて言わないで！ -

(URL : <https://www.countdown-x.com/ja/project/E3936029>)

(以下インターネットページより転記)

### このチャレンジについて

子ども用車いすの中でも特に社会的な認知度の低い、『バギータイプの車いす』。その認知度の低さから、介助者（主に利用する子供の母親）たちは人知れず辛い思いをしています。

この問題についてもっと世間に広く知っていただき、利用者や介助者とまわりの皆さんがお互いに譲り合えるような温かい社会になることを目指して、このプロジェクトを開始します。

そのベビーカーのような外観から、子ども用車いすは様々な誤解を受け、必要な介助が受けられなかったり心ない批判を受けたりします。

ですが私を含めた利用者や介助者こそ、分かってもらえない現状を悲しむのではなくもっと知ってもらおう努力をし、お互いにスムーズに生活できるような仕組みを考えて自分たちで発信していくべきだと思い、このチャレンジへの挑戦を決意しました。

この活動では『子ども用車いす』の存在を知ってもらおうと共に、車いすを識別するためのマークを作成し、認知度の向上のために様々な活動を展開します。

まだ殆ど認知されていないこの問題を全国に広めるには、大きな規模の啓発活動を行う必要があります。一人の母親の力では成し遂げられません。

どうか、みなさんの力を貸してください。

### 『子ども用車いす』をご存知ですか？

最近、電車内等でのベビーカー利用について様々な議論がなされています。

“場所を取るからベビーカーは畳んで乗るべきだ”という意見もあれば、“安全上、子どもはベビーカーに乗せたままの方が良い”という意見もあります。

実際、ベビーカーを畳まずにそのまま乗車するよう呼びかけている公共交通機関もあります。

それでも、ベビーカーを使っているとまだまだ言われます。

『ベビーカーは邪魔だから畳みなさい』  
『そんな大きな子供は歩かせなさい』  
『ベビーカーに縛り付けて、子供がかわいそう』

確かに、お子さんをベビーカーに乗せない方が良い場面もあります。  
良かれと思って声を掛けてくださっているのも分かっています。  
ですが、パッと見だけは元気そうなそのお子さんが、実は歩けなかったら？  
大きな病気と闘っていて、座ることもままならなかったら？

お母さんたちは、どんな気持ちでその言葉を受け取るでしょうか。



まるでベビーカーのような見た目ですが、これらは『子ども用車いす』です。バギータイプの車いす、と呼ばれることもあります。

子ども用車いすは、福祉用品です。ベビーカーのように“より快適に移動するため”ではなく、病気や障害が理由で“これがないと移動できない”子どもたちが使用しています。

このタイプの車いすは特に社会的な認知度が低く、一般の方はもちろん交通機関や小児科の職員にさえも『ベビーカー』だと誤認されてしまい、必要な介助が受けられなかったり施設に入れなかったりします。

このチャレンジを通して、バギータイプの子ども用車いすの存在が社会に広く認知され、利用者のみなさんが少しでも安心して外出できる社会にしたいと考えます。

## 一般社団法人 **mina family** (みなふぁみりー) の設立

mina family 設立のきっかけは、私の長女でした。



長女は妊娠時・出産時共に何のトラブルもなく元気いっぱい生まれ、その後もすくすくと育っていました。ですが生後5ヶ月を過ぎたある日、自宅で突然意識を失います。

度重なる入院と検査の結果、小児慢性特定疾患（長期療養が必要と国が指定している疾患）の一つと診断されました。原因不明、3000人～5000人に一人の、聞いたこともない病気でした。大きな病院をいくつも駆け回り、家族も必死に看護を続けましたが、病状は一進一退を繰り返し、3歳の時には重度心身障害者の認定を受けました。

自分が障害児の家族となって初めて分かる、不便さ、辛さ。

長女の闘病や生活を綴るブログを開設したところ、同じように子を介助している家族を中心にアクセスが集まり、様々な相談を受けるようになりました。

そして同じように子供を介助する家族のみなさんと話す中で見えてきたのは、当事者にしか分からない様々な問題でした。

綺麗ごとのチャリティではなく、本当に当事者たちが必要としている活動をするためには、誰かをアテにするのではなく当事者が自ら立ち上がる必要があると強く感じ、2015年9月、様々な人のサポートを受けながら **mina family** を設立しました。

## 子ども用車いすってどんなもの？



バギータイプの子ども用車いすは、外観がベビーカーとそっくりなものも多く、なかなか識別することが難しいかもしれません。使っているお子さんも、外見からは病気や障害があると分かりにくいことも多いです。パッと見ただけでは、ベビーカーに乗る子供と、それを押して歩く親にしか見えないこともあります。でも実は、お子さんはその月齢や体格にくらべて発達が遅れていたり、歩けなかったり。体幹機能障害や病気があり、片手で気軽に抱っこできないお子さんも少なくありません。



車いす自体も、車体重量だけで10～90kgほどあります。車体が折り畳めないものも多く、畳めるものでも片手で簡単に持ち運べるようなものではありません。

また呼吸器などの精密機器や医療機器、栄養剤や内服薬など、大量の荷物を荷物台に載せていることも多く、子どもを片手で抱っこして、車いすを畳んで荷物を持って移動する、ということは、ほぼ不可能です。



中には、車いすではなく市販のベビーカーを車いす代わりに使用している場合もあります。制度の隙間に落ちているような希少難病や、グレー判定（疑いありだが認定はできない）など、障害者手帳を受け取れない＝車いすの購入に公費補助が受けられない子どもたちです。（昨今の財政難で、市町村によっては障害者認定や福祉用品の補助申請基準がかなり厳しくなっています）

子ども用車いすの販売価格は10万円～40万円程度と高価なため、公費補助が受けられないお子さんは、車いすより安価な市販のベビーカーを使用していることが多々あります。（福祉用品である車いすに比べてベビーカーは簡易な作りになっておりサイズも小さいため、利用者はかなり無理をして使用しています）その場合も、“子どもを抱っこしてベビーカーを畳む”ことは非常に難しいのです。



## 泣いているお母さんをたくさん見てきました

福祉用品である車いすをベビーカーと誤認されることで、様々な行き違いが生じます。

バスや電車に乗ろうとしても、『ベビーカーにはタラップ（※段差を乗り越えるための移動式スロープ）は出せません』と言われてしまったり。小児科では『ベビーカーは院内に持ち込まないで、入り口に畳んで置いてくださいね』と促されたり。

そして、街中では見知らぬ人からとつぜん叱咤されることもあります。

『そんな大きな子、ベビーカーに乗せずに歩かせなさい！』

説明しようとしたり手帳を出したりしても、対応は変わらなかつたり、更に叱咤されることさえあります。

そんなことを繰り返しているうちに、介助者たちはもう説明することも諦めて、ただ謝ってやり過ごすことが当たり前になります。

『ごめんなさい』

病院で、リハビリ施設で、ひっそりと泣いているお母さんを何人も見てきました。

私たち親も、出来ることなら元気に歩く子どもと一緒に手を繋いで歩きたいです。車いすなんて、使いたくありません。でも、これがないと移動できないのです。

子ども用車いすはサイズの大きなものも多く、お邪魔になるかもしれません。電車やエレベーターの乗り降りが遅くて、ご迷惑をおかけするかもしれません。

※病気や障害と闘うお子さんたちの多くは、自宅から遠い大学病院やリハビリ施設に電車を乗り継いで通っています。（バギータイプの車いすは、普通の乗用車やタクシーには積めないものが殆どです。福祉用タクシーはなかなか捕まえにくく利用料も通常のタクシーより高価で、どうしても公共交通機関を利用することが多くなります）

私たち介助者も、できるだけご迷惑にならないよう配慮して使用する必要があると思います。

自分たちが優先されるべきとは思っていません。ただ、誤った認識でお互いに嫌な思いをするのは、とても残念なことだと思います。

どうか、まずは知ってください。『子ども用車いす』の存在を。

決して遠い世界の話ではありません。

大阪市の肢体不自由児童数と車いす交付台数 (回答：大阪市役所)	
肢体不自由の児童 (18歳未満)	1,135名 ※平成27年3月31日現在
児童の車いす交付・修理件数 (電動含む)	374件 ※平成26年の1年間

大阪市には全国的に有名なリハビリ施設や病院がいくつもあり、大阪市内だけではなく全国各地から子ども用車いすの利用者が訪れています。あなたが街中で見かけたベビーカーの親子も、もしかすると病気や障害と必死に闘う親子かもしれません。

## 子ども用車いす啓発プロジェクト スタート！

### 活動内容

#### 1.ポスターの作成と啓発活動

・『バギータイプの子ども用車いす』への社会的認知を高めるためのポスターを作成し、交通機関・商業施設などに掲示します。

・交通機関・商業施設などの職員さまに対し、子ども用車いすについての認知を広げるための冊子配布や簡単なセミナーを実施します。

#### 2.子ども用車いすを識別するマークを作ります



・『バギータイプの子ども用車いす』、または『子ども用車いすとして使用しているベビーカー』を識別するため、オリジナルのマークを作成します。マークは車体につけることで、車いすであることを識別しやすいようにします。

※現在は国際シンボルマークである『車いすマーク（青×白）』をはじめ、様々な方法で『車いす』であることを車体などに表示している利用者も増えています。



しかしながら、既存の車いすマークは障害をもつ人々が利用できる建築物や施設であることを示すマークであり、車いすそのものを表すものではありません。

(参照：公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会 HP)

そのため、既存の車いすマークではなく『子ども用車いす』を示すマークが必要だと考えています。

・作成する子ども用車いすマークは、車いす本体に表示するだけでなく、子ども用車いすで利用することに理解を示している施設などに表示する用途でも使用します。

## 活動の目標

ポスターで『子ども用車いす』への認識と『子ども用車いすマーク』の意味を広めることで、利用者とまわりの方たちがお互いに正しい認識のもとで譲り合える社会になることを目指します。

・電車やバスでの介助をお願いしやすくしたい

→車内や構内にポスターを掲示したり、職員向けの簡易セミナーを開催することで、職員や利用者への啓発を広げます。

子ども用車いすが、ベビーカーではなく車いすとして必要な介助を受けられる環境を整え、『出かけるのが辛い』という介助者を減らし、車いす利用者でも安心して利用できるという当たり前の状況を整えます。

・子ども用車いすでの利用が可能な施設に『子ども用車いすマーク』を掲示します

→施設（ショッピングモールや病院など）の入り口に『子ども用車いすマーク』を表示してもらい、それらの施設をリスト化してサイト上で公開します。

安心して出かけられる場所を可視化することで、介助者たちが車いすのお子さんとより快適に外出できるようにします。

・『子ども用車いすマーク』のキーホルダーを作成します

→子ども用車いすマークはキーホルダーにして、車いす（および同用途で使用するベビーカー）に表示します。マークは啓発ポスターにも表記し、世間に広く認知されることを目指します。

マークへの認知が広がることで、介助が受けられなかったり『畳みなさい』『歩かせなさい』などの誤った指摘を受けることを減らします。

またマークを付けることで、マークを利用する親同士がつながるきっかけにもなればと思います。

このチャレンジが成功すれば、子ども用車いすマークの活動を全国に浸透させ、マークのユニバーサルマーク化や、2020年の東京パラリンピック会場でマークが使用される（子ども用車いすで利用できる施設や場所に掲示）ことを目指します。

いつか、このマークがなくても全ての人々が当たり前に快適な暮らしができる、多様な生き方を受け入れ合える社会になることを、心から願います。

## 資金の使い道

- ・ 啓発ポスターおよび子ども車いすマークの制作代
- ・ 啓発ポスターの掲示料金（有料掲示の場合）
- ・ 啓発冊子の作成および印刷代
- ・ 啓発活動に関わるその他雑費
- ・ 子ども車いすマーク表示施設のリスト化と Web サイトへの掲載実装費用 等

以上

# 子供用車いす 理解を

## @最前線

### 「たたんで」ベビーカーと誤解

病氣や障害の子供のための車いすがある。移動には不可欠の存在なのに「ベビーカーと誤解され、電車やスロープで「たたんで」と苦情を言われる」ともはばはばをいう。理解を求めようと、啓発に立ち上がった啓蒙の姿を追った。

「さよらは坊ちゃん」トン正正、大阪市地下鉄今里筋線・蒲生四丁目駅(城東区)。本田香織さん(35)が、車いすの長女坊ちゃん(4)に話しかけながらホームを歩いていた。この日は連日雨のりハビリのため病院へ行く。

坊ちゃん(4)は脳神経の病気で「エスト症候群」で、重症の身体・知的障害がある。足をばたばた動かし、上機嫌だ。子供用車いすはベビーカーよりかなり大きい。本田さんは慣れた様子で車いすを押して乗車し、優先席わきの車いす用スペースに止めた。



「この車いすのキールダー(最高)をうけて出すのを坊ちゃん(4)が嫌がる。泣きながら待つ様子。

病氣や障害の子供のための車いすがある。移動には不可欠の存在なのに「ベビーカーと誤解され、電車やスロープで「たたんで」と苦情を言われる」ともはばはばをいう。理解を求めようと、啓発に立ち上がった啓蒙の姿を追った。

「もって子供用車いすの存在を知ってほしい」。本田さんは2015年9月、一般社団法人「Pina Family」を設立。「子ども車いす」と表示した「Pina Family」の製作を企画した。

「ヘルプマーク」導入広がる  
外見では分からないが、周囲の配慮を必要とする人は他にもいる。

「ヘルプマーク」導入広がる  
外見では分からないが、周囲の配慮を必要とする人は他にもいる。

## 前日 同支店で多額出金

男性が、現金を入れたスリッケースをレンタカーに積み込もうとしたところ、盗行グループの男に後方から襲われ、スリッケースを奪取された。

## 空自隊員 強盗強姦疑い

青森県警逮捕 面識ない女性宅侵入  
捜査関係者によると、9月10日、女性住宅を強盗し、強姦したと疑われる空自隊員が逮捕された。

調査し、事実関係に基づき厳正に対処する。などのコメントを出した。送検は14日付。

「ベビーカーを畳んでください。  
なんて、言わないで。  
知ってください。  
子ども用車いすのこと。」



**「子ども用車いす」であることを示すマークがあります。**

このマークは、子ども用車いす及び同目的にて使用しているベビーカー（病気や障がいがあるベビーカーでしか移動できない方）などが携帯しています。ご理解ご協力をお願いいたします。

知ってください。「子ども用車いす」のこと。

一般社団法人 mina family  
お問い合わせ先：06-7777-2708 <http://www.mina-family.jp/>